

## 平成 28 年度 神奈川衛生学園専門学校 自己点検評価結果

### (1) 教育理念・目的・育成人材像

本校は 1956 年（昭和 31 年）に神奈川県小田原市に設置され、現在は横須賀市に位置している。初代理事長後藤真一が掲げた「私たちの学ぶ技術は、芸術であり、科学であり、職業でもある」を建学の精神とし、「心ある、そして考える医療人を育てる」を教育理念としている。

現在では看護師、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師を養成し、各専門分野における医療人の育成に取り組んでいる。

教育理念や育成人材像は分かりやすく図も用いて表現し、ホームページ、学校案内（パンフレット）、学生便覧などにより、教職員や学生だけでなく、広く社会一般に情報発信している。

また、学校関係者評価の実施に向けて取り組みの準備を行う予定である。

### (2) 学校運営

本校の運営方針や事業計画等は法人組織として位置づけられている企画調整局を中心に策定し、理事会・評議員会で決定され、学校法人後藤学園として毎年 4 月に開催される新年度会にて教職員に周知している。

その他、学校運営に必要となる規程等については平成 28 年度に整備が進んだ。今後はより運用方法の改善をしていく予定である。

情報システムの整備については、具体的実施に向けて今後予算化して、取り組んでいく。

### (3) 教育活動

本校には、看護師を養成する看護学科及びあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師を養成する東洋医療総合学科が設置されている。

各学科認定指定規則に基づきカリキュラムを編成し、教育到達レベルや教授内容等についてシラバスに記載している。また、職業実践教育の視点による教育内容の工夫に関しては各学科とも臨床実習・臨地実習等において適切に実施している。看護学科も初めての卒業生を輩出したので、今後は、両学科の卒業生に対しアンケートを実施し、外部から意見も反映できる体制をとっていく。

授業評価制度については、学生による授業評価を実施している。今後は教員による授業評価も行い、より充実した教育活動が図れるようにしていく。

成績評価については学則に明確に定め、適切に運用している。教員の知識・技能レベルは各認定規則に基づいて採用していることから関連業界等のレベルに適合している。

国家資格・認定資格の取得に関連する 3 年間の計画を立案し、指導体制を明確にして実施している。

平成 28 年度のキャリア教育としては、看護学科は初めて卒業生を輩出したので、今後キャリアサポートの充実に向けて検討する。

### (4) 学修成果

平成 28 年度卒業生の平成 29 年 4 月時点での就職・進学率は、看護学科は 96.1%、東洋医療総合学

科では 93.7%であった。各学科とも国家試験合格率 100%を目標に学習支援に取り組んでおり、今年度の合格率は、看護学科で88.5%、東洋医療総合学科ではあん摩マッサージ指圧師100%、はり師88.9%きゅう師 87.3%であった。

今後は卒業生の社会的評価を把握するため、卒業生の就職先へのアンケート等の実施に向けて取り組んでいく。

#### (5) 学生支援

学生生活全般を支援するように努めており、学生生活の相談や就職支援体制は整備されている。

学生生活（精神面・学業面）については、各学科ともに個人面談を実施することにより学生からの相談に対応している。

退学者低減に向け、平成 28 年度退学者の要因分析を実施したが、学習面の問題が多く占めたため、今まで以上に補強学習など学習支援の強化を行った。今後は定期的に状況を確認する機会を設ける予定である。

健康面では、学生の健康管理に努めているが、学校医との連携を考慮に入れ、29 年度より近隣医院の医師に学校医を変更する予定で、今後より連携が必要である。

卒業生への支援体制として、看護学科では同窓会組織を発足、東洋医療総合学科ではアドバンスセミナーを開催した。

また、より一層保護者との連携を図る為、保護者・保証人会を東洋医療総合学科で2回、看護学科1回実施した。平成 29 年度より早期からの連携を心がけ、入学式後に実施する予定である。

#### (6) 教育環境

専修学校設置基準に基づき教室・実習室等整備されており、教育設備備品については毎年度各学科で予算計画を立て、その充実に努めている。

特に図書室は医学書を中心に約 19,000 冊の蔵書が増え、司書が常駐しサポート体制ができている。

学外実習については、看護学科は臨地実習において実習施設及び実習指導者と連携し、適切に実施している。また、東洋医療総合学科では、学外施設の協力を得て体験・見学実習を行っている。

防災体制については、防災マニュアルに定め、備蓄品の充実、防災訓練も2回実施している。

安全管理体制については、防犯システムを導入し24時間体制で管理している。

#### (7) 学生の募集と受け入れ

学生募集にあたっては、法人広報室を中心に各学科教員や職員とも連携を図り、ホームページや入学案内などによる広報活動や体験入学、学校見学、入試相談等による募集活動に取り組んでいる。

また、学校訪問を重点的に行い、進路担当者との信頼関係構築を目指すとともに、ガイダンスへの参画などによる募集活動も行い、入学定員の充足に努めているが、今後より一層の効果的な活動が必要である。

入学選考については学則に基づき、適正に実施しているが、再度規程を見直す必要がある。

#### (8) 財 務

平成 28 年度、学生定員確保が厳しい状況をふまえ、運営経費を全て見直し大幅な経費削減を行った。また、小田原校舎売却に伴う維持経費削減によって法人全体としての事業キャッシュフローは少しずつ改善が見込まれている。

本校における予算管理は、各学科・部署ごとに計画を立て、半期ごとに執行状況を確認している。今後はより教育環境を充実させていくため、半期での予算執行状況を鑑み、その都度、各学科・部署に適正に分配しながら、より適切かつ計画的な予算の執行を行い健全な学校運営を行っていく。

会計監査は公認会計士による監査が適時実施されている。また、財務情報公開の必要性を認識しており、財務諸表の公開準備及び財務情報公開に関する規程を整備する。

#### (9) 法令等の遵守

本校は設置学科ごとに毎年度養成報告を実施し、設置基準等の法令について遵守している。

今年度は「自己点検評価実施に向けての準備を進める」ことを重点目標として取り上げ、自己点検評価委員会を中心に「専門学校等評価基準書 Ver. 4.0」の評価項目に基づいて自己点検・自己評価を実施し、学校運営や教育活動の改善を進めることができた。

今後は第三者評価を視野に入れ学校関係者評価の実施に向け準備を進めていくとともに、財務情報を含めた積極的な学校情報の公開に取り組んでいく予定である。

#### (10) 社会貢献・地域貢献

後藤学園は、「地域に信頼され、地域と共に歩む学園」を目指し、教育・研究・臨床の側面から、地域・社会の諸問題の解決に取り組むことを宣言し、地域・社会に対して貢献できるように努めている。附属施設として、はりきゅう臨床施設、横浜国際プールはりきゅうマッサージ室では、鍼灸マッサージの施術を行っている。

今年度は、地域との連携で横須賀市市民講座や横須賀市体育協会講演会を担当したり、親子マッサージ教室、転倒予防のための講座、ツボ講座などを実施し、積極的に取り組むことができた。今後も引き続き地域と連携して進めていく予定である。

#### (11) 国際交流

後藤学園として、アメリカ（カルフォルニア州立大学ロングビーチ校、パークレー鍼・統合医療専門職大学院）や中国（北京中医薬大学・天津中医薬大学）、ドイツ（VPT アカデミー）の学校・教育機関と早期より学術交流提携を実施し、本校独自の留学制度を設けている。

今後は、留学に関する情報を整理し、分かりやすく情報提供できるように取り組んでいく予定である。